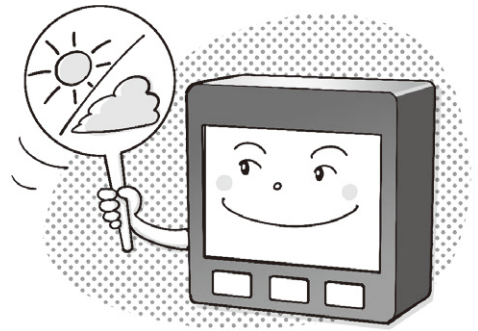


# M5Stackで作る ウェブ情報収集& 表示ガジェット



第2回 JSON データで取得した花粉情報を表示する

米田 幸生

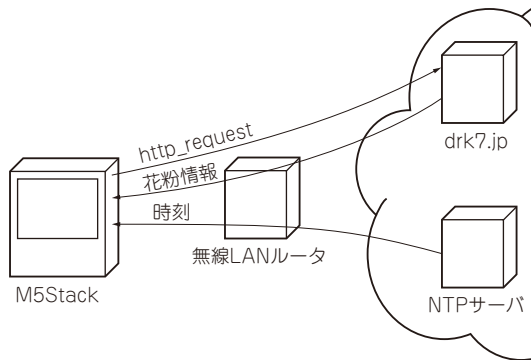


図1 花粉情報表示の全体の構成



写真1 花粉情報が表示される様子

「少ない」「やや多い」「多い」「非常に多い」の4種類が表示される

リスト1 花粉情報を表示するメイン・プログラム

メイン M5StackPollen.ino

```
//10分に1回取得する
if(count >= TIMEOUT_COUNT) {
  if(pollenJMA.getPollen() == false) {
    // もう一度行う
    delay(1000);
    goto FUNC_END;
  }
  printLocalTime();
  pollenJMA.drawPollen(); ← 花粉情報を取得し、
  portENTER_CRITICAL_ISR(&mutex); ← 成功した場合にだけ、
  intrGetCount = 0; ← 表示更新関数を呼ぶ
  portEXIT_CRITICAL_ISR(&mutex);
}
```

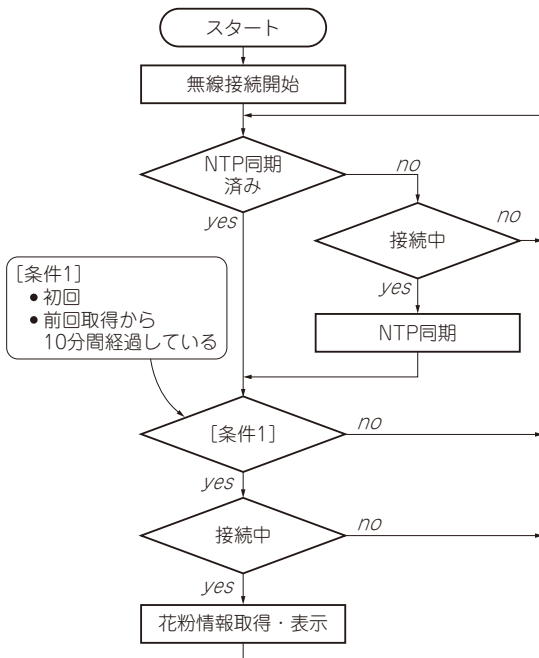


図2 NTPサーバにアクセス後、花粉情報を取得する

連載第1回(2020年12月号)で紹介した天気予報が取得できるウェブ・サイト (<https://www.drk7.jp/weather/>) からは、花粉情報も取得できます。

今回は、この花粉情報を M5Stack で表示します。

全体の構成を図1に、フローを図2に示します。ライブラリなどは第1回の天気予報を表示する場合とほとんど同じになります。今回は、花粉情報を文字で表示するための画像を自分で作成し、花粉情報に合わせて切り替えるようにします(写真1)。

## 花粉情報表示プログラム

花粉情報も天気予報と同じように環境省・厚生労働省が計測しているデータをJSON形式で取得していま